

# 稲穂

2020年9月24日(木)

校長 田沢 幸夫

秋分の日も過ぎて、少し秋らしくなってきました。連休中、私は少し田舎の方へ行って、田園地帯を散歩しました。田んぼのあぜ道には赤い彼岸花も咲いていました。黄色く色づいた稲は、収穫を前に、穂を垂れています。

作者は不明ですが、「実るほど頭<sup>こうべ</sup>を垂れる稲穂かな」という言葉があります。稲は最初はまっすぐ上に伸びていきますが、実が熟していくと、稲穂が垂れてきます。人間も成熟して中身のある人は、頭を低くして謙虚になるものです。逆に中身のない人は、偉そうにふるまうことが多いと思います。

新約聖書の中にも、次のような場面があります。

あるときイエスは弟子たちに、「途中で何を議論していたのか」と聞ききます。しかし、彼らは黙っていました。「自分たちの中でだれがいちばん偉いか」を議論していたからです。そこで、イエスは弟子たちに言いました。

「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。」

このようにイエスは、偉そうにするのではなく、人に奉仕することを勧めています。

わたしたちも、中身のある人間として成長し、お互いにいばるのではなく、謙虚な態度で相手に思いやりを示しながら生活していきたいものです。